（一）第七百四十二號　（土曜日）明治四十四年七月廿九日　月曜及祭日之翌日休刊　明治三十四年十二月二十日第三種郵便物認可

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年紀元二千五百七十一
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵稅一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲四號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 松久錦一郎
發行所 京城西小門通 京城新報社 電話六大三番 振替口座京城四五六番
仁川宮町三丁目 仁川支局 電話二一二番
東京市京橋區南佐柄木町七番地 東京支局

雜報

●今後の鴨緑江材

從來滿洲の木材界は北海道材及鴨緑江材の三者互に爭逐して混戰の狀態を繼續し居たるが近來に至り鴨緑江材の聲價漸く高まりて其の眞價が一般に認識せらるゝに至りたる結果今春以來需要俄かに増加して販路擴大さるゝに至り北滿洲材と北海道材との二者は漸次其の販路を蠶食されつゝあるが今昨年來の概況を記さんに長春材は重に奉天大連營口等に仕向けられ昨年中營口に輸出されたるは約十貨車內外にして奉天大連等に比しては勿論少額たるを免れず奉天に於ては長春材約一萬四五千尺〆渾河より流下したるもの約六七萬連にして此の方面には鴨緑江材の販出昨年迄は極めて少額に過ぎず而して大連に於ける長春材の相場は昨年に於て一立方尺の原價三十五錢之れに運賃の十二錢を加算して同地尺四十五錢に相當したるも今年は原價四十三錢に昂騰したるを以て大連着は五十五錢となり自然同地賣は六十錢以上に騰貴したる譯なるが一方鴨緑江材の相場如何と云ふに大連賣は同じく一立方尺にて紅松三十八錢見當なれば兩者の差額は實に甚しきものと云ふべく殊に大連は是迄北海道材の殆んど獨り舞臺たるやの觀を呈し居たるに同材は木質惡しき爲め近來に至り聲價俄かに落ち一般の需要頗みに減少を來たすに至りたり（つゞく）

●陸地棉の模範作圃

勸業模範場木浦支場にては陸地棉栽培に對して種子の無代配付其他賞給品の授與等其の方法一にして足らず尚は栽培法の模範を事實に示して之を農家に周知せしむるときは其の効果大なるものあるべきを以て本年度に於て各棉採種圃管內中適當と認めたる二十六箇所に陸地棉模範作圃を設置し多年該棉の栽培に從事して成績顯著なるものを撰びて之を擔當せしめ之が栽培に當らしめ其の一部分に在來棉を栽培して陸地棉との優劣を比較するに便ならしめたり而して之が栽培方法は總て當該採種圃員の指導監督の下に作業せしめ在來棉は其の地方在來の栽培法によらしめたり斯の如き模範作圃の設置は其の成績如何につき附近の農民の注目する所となりしが前年度は天候の經過不良にして諸作業意の如くならず從つて發育充分ならざりしと雖も同一圃中に栽培せられたる兩棉の成績に著しき差異を現實したるに至り之を目擊したる農民の腦裏に陸地棉なる三字を深く感染せしめ得たるは疑ふ可らざる事實にして本年度も同じく模範的栽培をなし陸地棉に關する思想を一層普及するに努むる計畫也と

●小包差出方に就て

近來小包郵便物に封書又は通信文を記載したる紙片を合裝せるを通關其他檢査の際發見せらるゝもの多き由なるが抑も小包郵便物に書狀を合裝するときは郵便法第四十五條に依り罰金刑に處せらるべきものなれば郵便局所に於ては斯る事故の防遏を目的とし各郵便局所前には注意書を掲做し尚受付の際小包の持參者に對し念の爲書狀封入の有無を聞糺したるも其持參者が差出人にあらざれば合裝を取扱ひたる者にもあらずして其內容を知らざるに拘らず局員の質問に對し漫然封入なしと答へ又差出人自ら持參して書狀を引拔き改裝するの手數を厭ひ一時の遁辭として封入なきを答ふる向も少からず此等は些少の手數を避けんとして却て後日に於て前記の如き刑罰を受け又は事故を生ずるに至るものなれば深く注意すべし（光化門郵便局報）

●洛東江附近水害

水害地 ▲救助 增水急激ならざりし爲め人民は豫め避難の方法を定め家財穀物等運搬し得る限り取片付けなしたるも中には如斯增水を豫想せざりし爲め避難に躊躇せしものあり又は憲兵警察より避難の催促を受け漸やく避難せしものあり又釜山府に屬する柳斗三坐二洞の住民の如きは全島浸水し退去の方法なきに至り警察より救助を出し漸やく避難せしめたるものあり以上の如く人畜の避難に就ては左るものなかりしも連日强雨の爲め避難民は數日の間食を求め能はざるものあり各所共多少の炊出をなし飢餓を凌がしめたり之れが費用は各地方共有志家の寄附によりて支辯しつゝあり ▲目下の生活狀態 麥の收穫後なりしを以て差向き救助を要するものは極めて僅少なるも將來窮況に陷るもの多かるべし食料品は若干の騰貴を見たるも奸商の加はりて暴利を貪らんとせしが如きものなし ▲交通機關 一時杜絶せし道路鐵道電信電話共應急修繕を加へ交通及通信上妨なきに至れり

雜錄

●紳士の説　故學士

世間にて紳士と稱するものゝ內には隨分詰らぬ人間も澤山あるようである一体紳士と云ふ意義を吟味すると中々六かしい吾輩は學者でないから深い事は知らないが先づ紳士とは普通に立派な人間を謂ふと定義を下して置く一体全体紳士と稱して恥しからぬ人間は世間には餘り澤山あるものでない茲に極簡短な解り易く具體的に非紳士と紳士とを列擧して見たいと思ふ高利貸をして金持ちになりしものは紳士でない火事泥的で成功したるものも紳士でない投機で金儲けをなしたるものも紳士でない服裝が立派だからと云つて紳士と云ふ事が出來ぬ賄賂にて私腹を肥やさんとするものは高位高官の役人と雖も紳士名を許す事が出來ぬ況んや其以下の腰辨に於てをや米相場も知らぬ樣な學者は紳士でない國家をかつぶしの樣に思ふて居る政治家も紳士でない金殿玉樓に住居するもの必しも紳士でない擧げ來れば非紳士許りで際限もない然らば其の紳士たらんとするには如何なる條件が必要ダロート云ふに金が無くても善い有つても差支ない金の有無は更に關係がない服裝の立派不立派は勿論の事である位勲の有無役目の高下少しも顧慮す可きでない學者でも政治家でも商人でも百姓でもろばやでもそんな事は必要の條件でない人品骨柄は賤くても善し美男子でも差支ないこれを擧げ來れば際限も無いが要するに紳士とは正義を踏み公道を行ひ榮辱に因て志を二三にせず富貴も淫する能はず貧賤も移す能はざる底の謂はゆる國士の別名であると思ふ若し吾輩の說に異議あるものは非紳士である京城五萬の內地人中眞の紳士なるもの果して幾人やある東洋の天地ます〳〵多事國難にして偉人を思ふ嗚呼悲哉。

文苑

●なでしこ　加藤梅雄

京城學舍生徒佐藤哲三君の歸郷せらるゝに其別れの團居にてよめる

言の葉は限ありけり君とけふあらの別をいかにいはまし

水練

くゞりては又うかびいで水のうちに水をわすれて水遊なり

梅雨

五月雨に軒の玉水濁りけりわら屋のわらのくちそめしより

螢

くらき夜も心のまゝに行かひてうらやましくも飛ぶ螢哉

瞿麥

いろ〳〵にさき交りて葉さへむつまじげなるなでしこの花

蚊遣火

ねながらに月見る人もありなむを閨はいぶせき軒の蚊遣火

伊勢公

靈浪の長き世かけてこむらさき染し御裏の色はあせめや

召使お初　黒法師

第百十五回

相生皐月を初めとして、多くの女中はお察を手擒にすべき意氣込なりき、力の限り揉み合ひたれど、お察一人に敵しかねて、兎もすれば敗色見えき、澤野はその度ごとに目の色を變へ、眉を吊り上げて『やア〳〵』と聲かけたれど、さほどの聲援、什麼の甲斐だもあらざりき、まことにお察のいふ如くお察の腕は鐵なりき、石の如き心の忠義は骨々節々に罩められて、一寸の隙もなく、又一寸の油斷もなかりき物の半時も闘ふ中、力と恃む皐月も倒れ相生は投げ付けられ、他の五七人は疲勞して、何れも木の根、苔の上に平太張りき、一陣風過ぎて、日は大空に赫灼たり、お察は顏色だも變らず、以前の場所に突立ちぬ、一もと高き松の下に翠ながらの落葉して、はら〳〵と袖に落つるも、彼女の勇氣に趣きを添ゆる如く風情ありき

「澤野さま、お約束お忘れはござりませぬな、お峯さまお身の上に弓矢御神御守りはござりまするで、此處もお引き取りあらせても、あなた故障を云はせられる事ござりませぬな」

「いやゝ」と澤野は一聲高く「まだ相手が殘りてある、そなた目に見ぬかや」

「お相手がござりまするとて……それや親方樣でござりまする」とお察は四邊を見廻し「私お相手は嫌ひませぬ、命の續く限り神樣御意に從ふでござります」

「これ此處ぢや、此處に一人殘つてある」

「何れにお在でござります」とお察が彼方を振り向く時、澤野の手に一口の匕首電光と閃きて、物をも云はず切り掛りぬ、お察も一普通の女ならば、老功手練の澤野の手に、一支へもなく切り付けられて、血煙の中に命を失ふべけれど、彼女の頭には忠義を守らせの神はしき、彼女の鬢髮は皆な目と光りて、前後左右に物を見き、澤野の打ちおろす刃が電光と閃けば、彼が此方を振り向く頭は、夫れよりも早かりき、きつとして

「お相手は……此方樣ござりまするな」

「をゝ」と澤野は初太刀を仕損じたる身を退け「命は貰ふた、覺悟の爲」再び切つてかゝるを掻いくゞり〳〵お察は忽ち付け入つて、澤野の臨腹を力任せに突きたりき、これ彼女の慣用手段、この一握の拳の冴ゑに、腕の肉は忽ち痲痺れて、手に持つ匕首をさつと落しぬ、お察はその樣を沈と見て

「澤野さま、お匕首でござります、お拾ひ申し上げませうかな」

彼方に立ちて此の場の樣子を瞬きもせず見詰め居たるお峯は、まことに喜びに堪はざりき、愁に鎖されたる胸の一時に開くる思ひして、顏色好さに溢るゝばかりなりき、富貴姫も亦笑顏しつゝ

「用はない退りや」

澤野は痺れたる手を擦りながら、口惜しげに斯く云ひぬ、この中にその他の女中は殘力なく起き上りて、初めの勢ひもなく默居たり

東京電報

▲橋立艦の椿事 練習艦隊は無事館山灣に入港したるが橋立艦は伊勢灣航行中遠州灘にて颶風のため兵卒二名即死六名重傷せしとの報ありたり

▲大暴風の損害 東京市深川方面に於ける各倉庫の贓米二萬俵浸水し其他の損害約千二三百万圓に上るべし

▲暴風と交通機關 東海中央線は一時不通となりしも廿六日午後漸く開通せしが東京市内電車は尙不通の個所あり一般の損害甚大なる模樣あり

▲暴風雨被害區域 大暴風雨の被害區域は神奈川、靜岡、茨城の諸地方なるが靜岡最も大なり

▲田氏、鐵道院總裁 前遞信省次官田健次郎氏は新に設置さるべき東京市電車局長就任を辭せり右は次の内閣に鐵道院總裁となる内約ある爲めなりと

▲朝鮮貴族會認可申請 朝鮮貴族侯爵尹澤榮外四名は京城に朝鮮貴族會設立せんと總督を經て宮内省に認可申請し來れり

▲桂内閣落城期 政界の危機愈々切迫し桂首相は八月下旬を以て骸骨を乞ひ西園寺侯新内閣を組織すべしと

▲東宮の御延期 東宮殿下の北海道行啓は又々御延期遊され奉る八月一日御鹵程發表八月上旬東京出發相成由

▲新濱鴨場の被害 芝新濱御濱場は今回の颶風にて土手破壞し場内一圓水海となり貴賓室を始め諸室浸水し被害甚だし

▲英國議會の紛擾 英國議會は上院否認權案のため大紛擾を釀し議事は終に延期となれり

▲獨逸の動員令 モロッコ問題に關し獨逸は動員令を發せりとの報あり

▲離宮及宮家の被害 湘南に於ける各宮家の御別莊は皆小破損あり芝濱の離宮も前報の如く浸水被害あり

▲練習艦隊の消息 練習艦隊阿蘇、宗谷の二艦は土佐沖にて颶風に逢へるも艦員皆無事なるを得たり

雜報

●通信事業趨勢 通信管理局設置以來年々非常なる勢を以て郵便物數の增加を見つゝあるが昨四十三年度の統計は目下調査中にして近く印刷に付し遲くも本年十二月迄に其の完成を告ぐる筈なるが昨年度に於ける通常郵便物及小包の引受配達濟と電報の發着數を聞くに左の如し

四十三年四月一日より四十四年三月末日に至る通常郵便物引受數四千六百六十萬通にして之れを前年度の四千七十二萬通に比すれば約六百万通の增加を其間配達數五千三百七十八萬通を四十二年度の四千三百二十七萬通に比すれば約一千餘万通の增加を見たり

同小包郵便物引受數六十五万七千餘個にして之れを四十二年度の同期に比すれば約二千万個の增加を示し同配達數九十一萬五千餘個にして之れを前年度に比すれば約二十萬個の增加を見たり

同電報發着四十三年度發信二百五萬九千餘通にして前年度の百六十二萬六千餘通に比すれば五十万通の增加を示し同着信二百萬八千餘通を前年の百五十八萬七千餘通に比すれば約四十餘万通の增加を示す尙は日に月に增加を見つゝある次第なりと云ふ

●京畿道内内地人農事 京畿道に於ける一万圓以上の内地人農事經營の狀況は既報の如くなるが京畿道に於ける内地人農事經營の全部を府郡別に示せば左の如し(金額圓位面積反位)

府郡名	經營者	投資金額	所有面積
京城	一四	六四、一一七	六九三
仁川	二三	七五、八三〇	二、四一七
水原	六	四三二、七五六	一五、三九九
廣州	二	五、二〇〇	四、三〇五
開城	六	一一、八四三	三一九
江華	一	一二、五七〇	三、三五〇
驪州	一	五、〇〇〇	一七七
長湍	二	三〇〇	一二
南陽	二	三、七五〇	一〇八
豐德	二	六、〇〇〇	九、〇七一
安山	二	三二、九七三	一、六七一
富平	一六	二四、六〇〇	一、三六三
始興	三	一三、〇〇〇	一二五
果川	二三	二〇、一八〇	六七五
通津	二	四二八	二六一
陽智	三	五四、二〇〇	四、一六八
陽城	五	五、三二一	四二一
陽川	一	二、五七五	一三二
振威	一	二五、〇〇〇	八三七
計	一一四	七九五、六六六	四五、五〇六

以上の如くにして人員は仁川府の二十三人最も多く投資金額及所有地面積は水原郡第一位たり而して上記の内投資金額一萬圓以上は既報の如く十人にて五千圓以上十一人千圓以上二十四人五百圓以上二十七人其他の四十二人は皆五百圓以下の投資者なり

●北鮮鐵道急設請願 本年五月當地に於て帝國鐵道協會第八回總會開催の際淸津商業會議所、鎭南浦、平壤各居留民團及び咸興、會寧、各日本人會より北鮮鐵道急設の件を提議したるため本月二十日鐵道協會は更に評議員を開きたる結果該提議を相當と認め二十二日附を以て諮問書に具申書を添へ總理大臣並に寺内總督へ宛て之を提出したり

●各民團教育費 本年度に於ける全鮮十一民團の豫算に對する教育歩合を見るに鎭南浦の四歩五三一を以て第一位とし之に次ぐものを大邱、釜山、平壤、京城、群山、木浦、馬山、仁川、新義州とし元山の三歩〇六五を以て最底となす今各民團別に依り豫算總額並に教育費を示せば左の如し

民團名	豫算 圓	教育費 圓	歩合 圓
新義州	一二、〇〇四	三、七一五	三、〇九四
群山	二九、九九九	一〇、八四六	三、六一九
馬山	三一、八三二	一〇、一八六	三、一九八
元山	五四、七三九	一六、七七五	三、〇六五
木浦	二五、七〇一	八、七六八	三、四一三
釜山	一六七、二一五	七〇、三一三	四、二〇五
京城	二九五、五五六	一〇九、四四五	三、七〇三
鎭南浦	二四、〇五六	一〇、九〇〇	四、五三一
平壤	四二、一六四	一六、二〇九	三、八四四
大邱	三三、九六六	一五、三八八	四、五三二
仁川	一〇一、二二四	三二、一三九	三、一七五

●鮮人滿州移住數 昨夏日韓併合以來朝鮮人の滿洲へ移住する者激增したるが最近滿國政務の調査に係る朝鮮人の現在移住者數總計約二十五万六千九百餘人なる旨其の筋に通報ありたり

●定例長官會議 二十八日午前十時より定例長官會議を開き寺内總督山縣政務總監を始め各部長官明石總長倭副總裁列席政務の打合せを爲し正午散會したり

●基督教徒下附金 廿八日出發せる内地觀光鮮人基督教徒觀察團三十名に對し其觀光旅費として總督府より金五千圓の下附ありたるを以て一般鮮人基督教徒は其筋の厚意を感謝し居る由なり

●木内長官辭任 農商工部長官木内重四郎氏は去る廿六日付を以て依願免官の旨發表されたり、同氏は三十九年二月統監府開始の際農商工部總長として着任し爾來朝鮮の殖產興業上に多大の貢獻をなし第二次協約後内部次官となり地方政治の改善に盡瘁し更に農商務次官に轉し再び殖產興業の任に當り今日に及び其政績見るべきもの多し

●木内氏送別會準備 當地官民有志は木内前農商工部長官の爲めに近く盛大なる送別會を開催せんとて目下有志者間に於て夫れ〲準備中なり

●長官事務取扱 木内氏辭職に付菊地殖產局長は農商工部長官事務取扱を命せられたり

●木内氏の送別會 別項の如く木内氏は近々歸東の途に就くべきに付廿八日午後六時より京城ホテルに於て總督府の官吏等百五十餘人盛大なる送別會を催すべしと云

●安奉鐵道復舊期 橋梁流失其他の損害に依り不通となれる安奉線各區間中橋頭南汶間は廿四日試運轉をなすに至り劉家河秋木莊間は廿五日秋木莊鷄冠山間は廿六日金家下馬塘間廿八日下馬塘連山關間は八月二日迄に復舊すべく鷄冠山鳳凰城間も廿四日中に復舊したる筈なるが本溪湖孟家堡間は太子河橋梁の流失にし工事の稍々難事なる爲復舊は八月十日と豫期せられ居れり

●水道本工事設計 京城水道は曩日の破損復舊工事は一時の應急工事に過ぎず若し多大の降雨等の事あらんには何時如何なる故障を生ずるやも計られざるを以て此際完全なる工事を爲し尙毎年浸水區域の送水線路延長約四千尺は複線となし萬一に備へんとて目下其設計中なり

●買繭の利害 慶尙北道義城郡に於て本年度生產の改良繭にして内地製糸家に賣却せし成績を聞くに最高價格一石に付金三十六圓最低二十五圓平均二十圓五十錢なりしを以て之れを原料として在來法に依りて操糸する時は凡生糸八百匁を得べく此代金二十圓を超へず更にまた之を原料として製織する時は紬布二百五十尺を得べく此の代金二十五圓に過ぎず以上の製糸及製織するには相當の努力及經費を要するは云ふ迄もなし よつて之れを精算するに繭の儘販賣する方が有利にして相反比例となり其差僅少ならずと故に當事者は何れも原料の儘販賣するの有利なるを感じ居れりと云ふ

●内地鑛業家と朝鮮 内地の大鑛業家が朝鮮の鑛山を經營すべく先般來其技師を派遣して各方面の調査に從事せしめ居る事既報の如くなるが未だ實地着手するもの又は鑛區の採堀出願をなすものは一人もなく僅かに黃海道黃州郡の鐵鑛を三菱が買收したるのみなりと云ふ尤も各方面を調査したる内地鑛業家は何れ其技師よりの報告を待ちて協議を重ねたる上出願又は許可濟の有望なる鑛區を買收するの運びに至るべしと云ふ

●西岸漁業調査 朝鮮海水產組合技師高橋永次郎氏は去六月五日釜山出發以來仁川以南朝鮮西海岸漁業調査の爲出張中なるが最初當地出發後直ちに江景に至り同地乾鰮魚製造販賣狀態を視察し仁川に至り各沿岸を經て群山に引返し目下同地滯在中にて蝟島漁船集合地の港灣修築準備として樋口朝鮮總督府技手並に測量技手等と共に廿四日群山出發蝟島に向ひし由尙同一行には原田佐賀縣、三島福岡縣、加藤長崎縣の各出漁團體監督も隨行せり又高橋技師は廿七八日ごろ群山出發木浦に向ひし筈なりと

●警務部長の任命 陸軍憲兵少佐大橋又三氏は二十二日附を以て總督府警務部長に任命されたり

●道技師の任命 勸業模範場技師山本小源太氏は今回道技師に轉任したり

●大阪高商見學生團 大阪高等商業學校學生伊藤異雄氏外二十名は夏期休暇を利用し朝鮮見學團を組織し二十六日夜入港の連絡船にて渡鮮直に同夜九時五十分發の急行にて當地に來り狀況視察の上新義州まで赴くべき筈なりと

●宗廟奉告祭の執行 二十九日は李王家の宗廟に嚴妃逝去の奉告祭を行ふの日取にして當日は昌德宮及德壽宮の各高等官等は北部昌德宮附近の宗廟に參集し發引告由祭なるものを擧行する筈なるが本祭は過日擧行したる成服式と同樣の大祭にして李太王、昌德宮兩殿下及王世子殿下等何れも代理をして參拜せしめらるゝ古例なりと云ふ

●水害地視察報告 二十八日午前九時より總督府に寺内總督山縣政務總監、倉富、石塚、荒井、池田、宇佐美、小松の各長官及明石警務總長、菊地長官代理、小城長官代理、倭副總裁、關屋學務局長、兒玉會計局長、武藤事務官列席の上二十六日水害地より歸任せる中山大佐の水害狀況報告あり同十時終了したり

●濟州島の漁業 濟州島に於ける出漁船數二十五六隻漁獲物の主なるものは鮑、鰮漁船一隻の水揚高二百圓内外なりと云ふ並に本島は目下鰮の盛漁季にして鮮人が筏を以て焚寄網を使用するもの其數五六十艘に及ぶ此漁業は日人荒川留重郎(廣島縣人)前以て金錢漁網を貸與し漁獲物を買取り鯣干となして内地に輸送すと云ふ毎年の收益二三万圓の巨額に達し本年の漁業は前年に比して漁獲多量なる由

●新橋下關間急行車 鐵道院にては現在の新橋神戶間急行運轉の一二等寢臺急行列車を下關迄運轉を延長し新橋下關間連絡を一二等最大急行列車とする計畫なるが之に伴ふて最新客車數十輛を作製す可く目下企畫製圖中なり其重なるものは三方硝子張とする一等ボーギー車七輛寢臺車五輛一等ボーギー車四輛二等ボーギー車八輛大形食堂車五輛等なるが何れも現在に見ざる善美を盡せるものとして大部分は新橋工場に於て製作する筈なりしも時日の都合により或は數分を大宮工場其の他に於て製造する事となるべしと

●長生浦の鮑罐詰業 釜山より十七八里慶尙北道長生浦に於ける鮑罐詰業は朝鮮にて未だ他に類なきものなるが該業經營者は内地人にして二十三年開業製品數量は年額千五百箱(毎箱四打入 六千打價額一萬六千五百圓一箱十一圓にして一罐二十三錢)にして毎年四月より十月中旬迄の鮑捕獲季節が製造季節にして使用人員數は鮑捕獲者女四十八人工場員九人雜役十三人合計七十人なり作業配置は原料掛り別秤分罐詰方封罐掛殺菌用漑罐掛等に分ち鮑採收高は一人一日當平均五貫目にして賃銀は出來高にて一貫に付三十錢なり又六七月頃には一人十五貫目を捕獲することあり而して採收に使用する勞働者は三重縣志摩の海女にして採收時季を過ぐれば歸國す又製品は長崎を經由して淸國上海方面に輸出しをれるが前途極めて有望の事業なりといふ

●大洋報の禁止 浦汐大洋報社發行の大洋報第一號第六號は治安を妨害するものと認められ朝鮮に於て發賣頒布を禁止されたり

●大邱製莚狀況 大邱製莚會社にては目下九十四名を使役し從業なしをれるが其成績を聞くに本年四月より六月までに原料使用高莞草九百五十一貫六百五十匁麻百五貫三百三十匁紡績綛糸九九絹糸二百六十五匁五分染料九百六十六匁監獄囚徒製織用の分莞草千百八十四貫二百八十匁麻百三十七貫五百十匁紡績綛糸六九染料三百七十匁を要し製織高は疊表千四百六十四枚花莚四百八十九枚座布團五拾五枚監獄囚徒製織高疊表千九百枚花莚五百二十八枚半に上れりと

●防長水產の鮮海漁 防長水產組合の主唱の下に組織されたる防長漁業株式會社は其目的とする所朝鮮海の漁業にあるが其の漁撈法は現今泰西諸國に行はれつゝある漁船流網にして本年度は鐵船の準備漁期の間に合ざる結果僅に使用し來れる從來の木造漁船數隻をして試漁せしむる所ありしに豫期以上の好果を收め其の前途の有望なるを確め得たると共に一面に在ては既に注文中なる漁船も八月末か若くは遲も九月中旬迄には落成の筈なれば泰西の漁撈法を折衷し當業者が多年研究の結果發明せる獨特の方法(即ち鐵船木造船併用)にて十月の交愈々出漁すべく夫れ〲準備中にて從つて定時總會も夫れ迄延期せり

●司法官の轉任 釜山地方裁判所檢事兼判事熊澤氏は新義州區裁判所檢事に檢事奥田暁氏は釜山地方裁判所檢事に判事吉田平治郎氏は京城地方裁判所判事に何れも二十一日付を以て補せられたり

●通運社長消息 目下西鮮巡視中の吉村通運會社社長は菅谷同社京城支店長と共に二十七日安東縣を發し新義州に向へり

●熊谷直亮氏の出發 一度赴任の上來京中の平壤民長熊谷直亮氏は來る八月一日愈々當地を引揚げ平壤に向け出發すべしと

●熊谷氏の送別會 別項の如く熊谷平壤民長は八月一日出發に付當地官民有志及氏の知人等は七月三十日氏の爲めに盛なる送別會を開く筈なりと

●藤川書記官の出張 度支部の藤川書記官は土地調査局の用務を帶びて去る廿六日水原及大邱方面へ出張したり

●仁川の家禽協會 仁川にては地方家禽の改良增殖を謀る目的を以て今回仁川家禽協會なるものを設立したるが毎月一回講話會を開き會員相互の智識を交換し斯業の研究を爲すと共に毎年陳列會を開き或は調査をなす等家禽の改良增殖に務むる由なるが事務所は仁川新町一丁目一番地の入理郵高木十郎氏なり

●勤勉の集配人表彰 京畿道土城郵便所集配人鈴木林平は去る卅九年十月より本年六月迄滿四年九ヶ月間勤續其間勉勵服務し成績良好の者なりしが過回家事上の都合に依り辭職したるに依り其功績を賞し今回其筋より金十四圓四十錢を手當として賞與せられたり

●鴨綠江流域水害 同方面の水害狀況視察のため内務部より派遣したる松本屬の義州より發したる報告に依れば義州街道に於て橋梁二破壞し道路の浸水せしもの二箇所にして深さ股に達せり平北道西半部は水害區域にして義州、博川、郭山、舊義州、鴨綠江の島及び龍川の「ヨウシイセイ」一帶の地被害最も多きも溺死者は少なき見込なり其内判明したるもの七家屋全潰七十半潰五百十四浸水二千三百田畑道路等の破損多大にして目下調査中なり農作物は浸水時日少きため煙草大豆の外さしたる損害なかるべし場所によりては或は豐作ならん各地共道路の破損甚しく復舊すべし罹災民は一般に水害に慣れ居りて隣保相助くるの美風あり尙目下架橋工事あるため賃金散布し今の處にては生活困難を訴ふるものなく救助の必要なし新義州博川には一時炊出をなしたるも既に停止せり其の費用は地方費より支出したりと

●平安北道連郡水害 平安北道警察署管内に於ける水害溺死者一家屋全潰十戸半潰十七戸浸水二千九百四十戸田地の埋沒流失二十八町歩浸水百二十四町歩畑の埋沒流失百十八町歩浸水七十四町分以上損害見込額一萬七千五百九十圓其他の被害は目下取調中なりと云ふ

公人私人

▲菅野三四郎(黃州警察署長) 二十八日三日月へ
▲宮本政藏(大邱模範場技師)同浦尾へ
▲野田柄雄(京城地方裁判所檢事)同不二屋へ
▲馬場謙(遼東新聞記者)同京城ホテル
▲奥健藏(大藏省技師)同鎭南浦行

▲茶袋▼ 鑪人

▲朝鮮の軍制も改正さるゝことになつた、就ては遠からず今の軍司令部は解體されて、將に出來んどする陸軍部がソレに代るであろう▲制度の改正と云へば致方がないが、夫れに付ても右の改正と同時に、[illegible]の模範人物とも云ふべき、大久保大將を失はねばならぬことになるのは痛惜の至りだ▲鮮人基督教内地視察團が出發した、或人の曰く彼等の觀察旅行やソンナに急を要するに非ず、されば嚴妃殿下の葬儀執行後に於て出發するとも決して遲からざりしものと▲ソレは扨置き右の觀察團一行に對し、我總督府が、旅費の補助として金五千圓を下附したのは、當を得たもので、何でも金錢はコー云ふ良い事には、惜しまず使ふがヨイ▲只だ感心の出來ぬはドウ云ふ譯か、該觀察團が最初の日程を變更して、關西線で大阪から奈良へ出でながら、伊勢の大廟へ參拜することを略した事だ、奈良の大佛も宜し日光日暮の門も宜し、併し眞に鮮人をして精神的感化を受けしめんとせば、ドウしても伊勢へヤラナキヤダメだ、▲コワ聞く今度大阪市へ按摩マッサージの實習校が出來て、良家の令孃や、嫁さん逹へ、斯術を教授するソウだが、嫁入前の令孃、及び嫁さん逹にして斯術乃ち孝行術を學び、ソレを姑に施すならば、家庭は僅かに圓滿に行かう▲聞く大和の富豪土倉家では、昔からの家法として、嫁入前の娘等には、必ず按摩術を習はせるソウだ、ソレかあらぬか、土倉の娘で、姑の故を以て、離婚されたものは一人もない▲女子に家政學、活花、茶の湯、之等の必要なるは無論であるが、併しソレ等よりも尙一層必要なるは按摩乃ち姑に對する孝行術のソレである我民團立高等女學校へも、科外として按摩術實習部を置いてはドウカ。

京城藝妓の半生　清華亭　政菊（一）

政菊、彼れは淸華亭、否、中檢でも屈指の美人にして聊しく達者なものである、だから從つての流行妓である、今度會つたら聞かう今度會つたら聞うと思つてる間にツイ會う機を失つたので今晩分訪問した處で話すまい、となると面倒だから探つた丈を御披露に及ぶ「アラ違つてゝよ」と仰云つても拙者の所爲でない限り一切存じ申されの說から其の心算で居て貰ひたいね乾盃の毒だが、エヘン、扨彼れは總公さんで名高い兵庫縣は神戶市中町通り六十二番地の住人淸水某の長女國留しなと申す明治二十六年生れの十九歲――とは日韓國の關る所であるが實際は二十一歲だ相である相だ、不思議だなんて首を傾げるには及ばず讀者は唯モウ新聞の文字遣りに代れ考へ書き下さることに願する、世が世であらば手綱や、れ手玉に夢中なるべき只の八歲にして神戶の中券から玉菊と名乘つて半玉に出た、十五歲の秋迄は極めて無事……でもあるまいがマア生命に別條もなく明し暮して來た天の成せる麗質……笑つちや不可ん……其の天の成せる麗質なるものは追々と光を放つたので、之れに眼を止めたのが運漕問屋の松岡君であつて此所に彼れは波瀾多き女としての新生活に入らしめられたのである、其事あつて十八歲の正月迄は又候無事に消んだか其の二月に例の造船所の川崎君と關係が出來て二三ヶ月の間は双方とも知らずに濟んだが人の目には戶が閉てられぬ遂に兩者の知る所となつて大々的競爭となつた勢力から云へば大した相違はないが政菊の意は川崎君の方に傾いて居るのだから最後の勝利は造船所にあつた事勿論である、が松岡の黑幕が知らずに來ないので彼れは藝妓の妻太郞と云ふのゝ入智恵で川崎君と大坂から東京へと旅行した其の跡で菊太郞は松岡君に駒吉と云ふ政菊よりは一段上の美人を押し付けて無事解決を付けて呉れた、其の通券の手紙を受取つゝ神戶へ歸つたのが其の年の九月中旬であつた其の十一月に芽出度川崎君に落籍されたのであつた、此れより先彼れは大阪滯在中芝居見に行つた際片岡我童の舞臺面にボーツと參つた茶手を通じて旦那には秘密で何程かの花を贈つた無論名刺を添へて面して旦那が一緒なので此所では仕方もないが神戶へ歸つての上で何とかして――との觀念を抱いて歸つたのだが其の際もなく受け出されて仕舞つたので、一波去りて一波來る、彼れから朝鮮落ちの序幕は此れから引かれんとするのである。

●監督局長に勸告

▽六丁目郵便所に就て

一本町六丁目郵便所の不埒とか不親切とか不都合とかは一般の認むる所と覺しく昨年來屢々各新聞紙叢書だより欄中に之れに對する不平は揭載せられ之れに依りて生ずる公衆の不便不利益は當局に訴へられたと僞す然るに如何なる故にや一も顧る所なき如く渺しも之れが運善の手段は講せられず依然として依然たるもの〻如く不平を愬ふる公衆の投書に接すること舊の如し、當局者は之れを公衆の贅澤に出づるものと見るか或は何人かの中傷と見るか而して同郵便所には不都合無しとするか不都合なしとならば不都合を認めざる旨を明にせられたし、さすれば僕は每日取扱ふ投書中の此れに關するものを悉く沒として採錄するの手數を省くことを得んなり、若し之れに反して同所員が公衆に對し不便不利益を與へつゝありとせば何等かの所置即ち公衆に利便を與ふべき手段を執るべきことを勸告す（一記者）

●繼父を怨んで放火

▽小使錢を與へぬとて

二十七日午後十時三十分頃永樂町二丁目十三番戶古物商高橋熊松方に放火未遂あり犯人は熊松の繼子に當る同居者なる熊本縣天草郡本渡町生れの部熊入郞にして熊入郞は六歲にして父親に死に別れ母親はつが熊松方に嫁すと同時に連れ子として入家し養育せられしが去る三十七年熊入郞は渡鮮し熊松等は三十九年渡鮮せしものにて其時既に熊入郞は獨立して雜貨商を營み居しりも失敗して加るに惡性痲毒に罹り身体弱りし爲め再び熊松と同居家業に手傳しつゝありしも熊松が虐待を逆行かさる冷遇するより密かに衣類其の他を盜み出し之を入質し保護しつゝありしも遂事露見せし爲め公然小使錢の要求を爲すも聽せぬ爲め石油を店內に散じ火を投せんとせしを發覺せしものにて目下南部署に取調中なりと

●淸潔法執行（仁川）

連日の霖雨にて濕氣室內に充ち殊に浸水の個所は土地家屋の汚穢ー臭氣紛々たるの有樣なるより仁川警察署にては來る八月一日より市內全部臨時大淸潔法を執行する事となり淸潔方法左の如し

一　浸水したる家屋は浸水の退きつゝある場合に浸水せる部分を淸水にて充分洗滌し汚垢を除く事
二　浸水退きし後は窓戶を悉く開放して大氣及び日光を通せしめ乾燥を計ること
三　日本式家屋にては床板の充分乾燥したる後疊を敷くこと
四　床下の汚泥は之を除き淸潔にして乾燥せる土砂を取替ゆること
五　浸水たたる疊、建具等は淸水を以て充分洗ひ汚垢を去り日光に乾燥したる後使用すること
六　家屋內の不潔なる場所は成るべく消毒藥液を以て拭淨すること
七　汚水の浸入せる井戶は充分浚渫の後使用すること
八　溷濁せる井水は砂濾又は明礬沈澄法（水四斗に約八匁の細末結晶明礬を投して靜置す）を行ふたる後使用すること
九　凡て飮用に供する水は煮沸すること
十　下水は總て浚渫して汚泥を去り汚水の流通を良くし甚しき不潔の場所には石灰乳を散布する事
十一　家屋の周圍に沈渣せる汚泥は悉く取除くこと
十二　塵芥は乾燥の後成るべく燒却すること

●逃走美人の保護　二

十八日朝仁川入港の群山丸に姬御前のあられもない細帶一本に浴衣を纏ひたる一美人あり折から水上派りの警官出張取調べたる處鳥取縣西伯郡□村大字渡□當時群山本町通り本町湯濱邊悠平の娘渡邊せい（十六）とてれせいは悠平の先妻の娘にして目下繼母の虐待は甚だ敷いので實母の事が思ひ出されては時折淚を零し世の味氣なきを卿ち鄕里に實母を尋ね胸の悶ゐを訴へんものと着のみ着のまゝの寐亂れ姿で家出逃走せし由にて目下仁川署に保護し實父に照會中なり

●龍山の赤痢患者

本籍東京市牛込區市ヶ谷藥王寺町七十六番地生れ當時龍山鐵道官舍第三號合宿所鐵道局守衛佐藤淸治（五〇）は去る二十六日より現住所にて赤痢病に罹り鐵道避病舍に收容せらる原因は不明

時事俳評　千春

△王世子殿下の御歸
夏羽織男になつて戻りけり
△[illegible]葬儀
白蓮や法の灯うつる油
△國民讀本と獨逸
村外れまでも早稻田の薰かな
△船車三等客の待遇
身動きのならぬ暑さや三等室
△敎員の夏季講習會
炎天を凉しうまわる水車かな
△京城藝妓の半生
仇浴衣姐の身の上あわれなり

●子を持つ親は注意

京城蝶ヶ町一丁目大工職姬野某次男姬野鶴□は以來活動寫眞□□せしのみにて乳臭き少年ながら父親は大工に弟き下ごしらへに遊び勞ら仕込みつゝある由なるが去二十七日夜壽座に芝居見に行き觀客某が熱心に見て居る隙に乘じ袂より金六十五錢入財布を掏摸たりとて其筋に引致され取調の結果窃盜犯分なるも犯罪無能力者として訓戒放免となりたるが警官の說諭に際し貴樣□に

●總督對訴訟判決

總督府秋吉氏の公判は二十八日仁川區裁判所に開廷審理の結果原告の請求棄却となれり

●大工の詐欺取財

龍山元町四十九番地三重縣人大工職竹內太三郞（三八）は四十一年三月頃より龍山元町在韓國製紙會社に大工として雇はれし以來該會社を利用し會社關係人上山彌藏加藤久吉河野政太郞外二三名より金二百二十餘圓を騙取し北部署に探知され目下取調中なりと

●姦通韓婦の處刑

京畿道楊州郡南面泰正里六統六戶金季甲（三□）の妻洪姓女（二□）は子供迄あるに楊州郡獄縣面內韓千福（三□）と姦通し京城區裁判所に於て洪姓女は懲役一年韓千福は八月に處せらる

●小谷嘉吉商店の移轉

仁川仲町（□□）足袋の朝鮮滿洲販賣元及裝具建具材料商の同店にては開業三週年に相當し茲に營業擴張の一新紀元として仁川本町四丁目四ツ角に移轉し卸小賣共同一値段の大勉强を爲すと云ふ

●仁川の判決　原籍兵庫縣川邊郡川西村字火打當時仁川住所不定田中和四郞（三五）の窃盜詐僞及橫領罪に對する公判は廿八日京城地方裁判所仁川支部に於て懲役二年に處せらる

●禪鐵提唱　若草町一丁目曹洞宗本山別院にて三十日午前九時より田中道園老師の無門關及び般若心經の提唱あり參聽者は同院に杖を曳かるべし

●大角力又日延　晴天

五日興行の筈なりし太刀山一行の大角力は天氣定まりたる模樣なれば土曜及日曜を見込みて廿九卅の兩日間日延べし七日興行の事に決したり由は既報の如くなるが官憲招待相撲及京城日報社にて各一日宛の勸進角力ありと云へば都合九日の開場となり人氣なかなか盛んなりと云ふ

●大相撲勝負と取組

四日目の勝負及取組は左の如し

▲四日目勝負

勝	負
大崎（しげ）	八ッ房
平の石（よう）	陣立
有明（ちや）	鏡川
土川山（すくひ）	鐵甲
國見山（め）	伊勢濱
金の花（かし）	能登嶽
大蛇潟（こて）	陣立
五十嵐（だし）	塞玉子
上ヶ汐（おり）	鳳
太刀山（より）	黑瀨川

▲六日目取組

敷島	加勝山	八ッ房	勝田嶽
大崎	輪飾	金の花	平の石
玉の川	太刀音	上ヶ汐	塞玉子
鏡川	鐵甲	大蛇潟	土州山
鳳	陣立	有明	五十嵐
黑瀨川	伊勢濱	國見山	太刀山
京日社れ好み番外		上ヶ汐	土州山

●演藝だより

▲歌舞伎座　好人氣の仁○加曾我迺家合同劇二十九日の代り狂言は大丈夫（二場）れしゆん傳兵衞（一場）ローストラプ（四場）安達ヶ原三段目（一場）にして重なる役割は左の如し

中川作平（東蝶）新助（團二郞）猿廻し與次郞（尾半）與二郞母（小半）今西三五郞（重忠）

▲壽座　二十九日木村猛夫一行の代り狂言は前「疑亂髮」切は喜劇「オペラ」にして重なる役割左の如し

柳本龍文（猛夫）太田寅作（櫻井）關島（寺田）鈴木（稻澤）文子（君子）仙太（富士井）

▲僕は去二十三日附を以て京城日報紙の編輯（去る十九日の記事）山縣君の態度に非常に感服し社會道德の上に多

…大の秘密あるを以て讀者諸君は留意して讀まるゝ如くに注意事項を京城日報紙葉書欄に投書したら沒どしゃ其の儘他人の惡口は載せて居るではないか不親切だ云々（市內壽町二ノ一高野天生）▲と云ふ御不足だ抑書された方として遺憾然るべーであらうが扱つた方では不用意に取扱つた丈で意味のあつた事ではあるまい長文であつたと云はるゝからには猶更左樣と思います夫れとも前便のが溜つて居るので跡から出るかも不明りませんと思ふ（係）▲友人學士閑靜なる二階貸間（賄付）を求む貸與の御有志あらば何卒本欄まで（●韓國內の一人）▲播料なせ鮮人數配人ばかりなぐつたりするのか餘りに無茶だ（局人）▲本町六丁目の郵便所の不親切には驚いた急ぐ時は四丁目迄行く方が早い（壽町生）▲先日から度々本町六丁目の郵便所の事が出るが實際彼所はいけないね（中客）いくら家ばかり立派でも駄目だらうしめ（エスエー生）▲エスエー生君よ壽君の惡口は略します（係）▲若草町日鮮人の塵芥箱の蓋がないので蠅が澤山居り夫れに衞軍がウヨ〳〵（朝夕通り生）▲京城府廳衷門の終夜燈を少し新しいのに取替へて貰いたい（不用世話焼生）▲靑木堂の主人は短氣おやない淡泊なんだ此の頃は店が廣くなる從つて客さんが殖れたので此の頃は袢天がけで働いて居る（實見生）▲我意を得たり、商人は夫れでなくては不可ぬのだ、繁昌する秘訣は夫れが秘訣でよ（小僧）▲鮮語硏究致し度し壹夜何れにても宜しく個人御敎授下さるれ方樣何卒本欄にて御住所姓名を（櫻井町住人）▲斯う云ふ注文は自宅を明にして其の方へ回答を取らるゝ方が禮にかなつた事と私は考へますが如何でしよう（係）▲某署監督部長の親友で目下悲境にある重病に罹りしも費用なきに困り居る旨を聞きたる明治町の鶴田醫學士は無料にて手術をして上げられたので同人等は厚恩を感謝して居る（への字）▲僕は仁川の一官吏だが宮町一丁目の明治屋本店と云ふ雜貨類を販賣する店の信用ならざるてとを驗し得た他店で十一圓五十錢の旅行用鞄が彼れの店では十九圓五十錢だと云ふ夫れで品質は劣つて居ることを發見した恐るべきものだ（一官吏）▲南大門稅關支所にて監視○○某と鑑定官との間に軋轢を生じ事務澁滯して一般貿主に迷惑をかけつゝあるとの投書は精探を要するを以て沒とす（係）▲京城の監る開港土出張所に出張所長某妾某女中のオナキとかれはいついどか云ふ美人は元來今の旦那と本妹とか云ふ人とかの共同物であつた相だ夫れが此の頃北部地方から來て溫泉場に宿つて居る高官とか云ふ刑事被告人と好い事をして遊んで居るとサ、一寸先は闇の世オヤキいゝ、い、い、マックラ（與太郎）